

広島大学学習システム促進研究センター(RIDLS)
講演会シリーズ No.9・10
資料

品格, 徳, シティズンシップのための 教育国際プロジェクト



広島国際シンポジウム

日時：平成27年7月23日(木) 10:00~17:00

会場：広島大学大学院教育学研究科 第3・第4会議室

東京国際シンポジウム

日時：平成27年7月25日(土) 13:00~16:50, 26日(日) 9:30~16:50

会場：キャンパスイノベーションセンター東京 国際会議室

主催：学習システム促進研究センター
(Research Initiative for Developing Learning Systems: RIDLS)

目 次

【講演会スケジュール(ポスター)】

広島国際シンポジウム / 1

東京国際シンポジウム / 2

【ご挨拶】

学習システム促進研究センター代表 池野 範男 / 3

【講演会資料】

海外ゲスト紹介 / 4

参考資料① JUBILEE CENTRE / 5

発表資料① James Arthur (バーミンガム大学) /10

発表資料② Jon Davison (バーミンガム大学) /15

参考資料② Amber Makaiau (ハワイ大学) /21

参考資料③ Amber Makaiau (ハワイ大学) /27

発表資料③ 中山 理 (麗澤大学) /36



講演会シリーズ No.9

品格, 徳, シティズンシップのための
教育国際プロジェクト

広島国際シンポジウム

— Time Table —

10:00	開会
10:10	キーノート・スピーチ1 (Prof. Jon Davison, 英国, バーミンガム大学)
11:10	Q & A
11:25	キーノート・スピーチ2 (Prof. Stephen Ellenwood, 米国, ボストン大学)
12:25	Q & A
12:40-14:00	昼食
15:00	キーノート・スピーチ3 (Prof. James Arthur, 英国, バーミンガム大学)
16:10	Q & A
16:30	休憩 キーノート・スピーチ4 (Prof. Amber Makaiau, 米国, ハワイ大学)
16:40	討議
17:00	閉会

日 時 平成 27 年 7 月 23 日 (木) 10:00~17:00

場 所 広島大学大学院教育学研究科 2F 第三・第四会議室

※ご参加を希望される方は、下記の岡田まで申し込みをお願い致します。

【お問い合わせ】 広島大学大学院教育学研究科

社会認識教育学講座 岡田 了祐 okada@hiroshima-u.ac.jp 082-424-6801



講演会シリーズ No.10

品格, 徳, シティズンシップのための
教育国際プロジェクト

東京国際シンポジウム

- Time Table -

7.25 Sat	13:00	開会
	13:15	キーノート・スピーチ1(池野範男教授, 日本, 広島大学)
	14:15	キーノート・スピーチ2(Prof. Amber Makaiau, 米国, ハワイ大学)
	15:15	休憩
	15:20	キーノート・スピーチ3(Prof. Jon Davison, 英国, バーミンガム大学)
	16:20	一日目 討議
	16:50	一日目 閉会
	18:00	夕食
7.26 Sun	9:30	開会
	9:40	シンポジウム「学校の試み」 品格教育(若井田正文, 日本, 元世田谷区教育委員会・ 青木多寿子教授, 日本, 岡山大学)
	11:10	シティズンシップ教育(三舟薫教諭, 日本, 神奈川県立新城高校)
	11:40	コメント& 討議
	13:00	昼食
	14:00	キーノート・スピーチ4(Prof. James Arthur, 英国, バーミンガム大学)
	15:00	キーノート・スピーチ5(中山理教授, 日本, 麗澤大学)
	15:10	休憩
	16:10	キーノート・スピーチ6(Prof. Stephan Ellenwood, 米国, ボストン大学)
	16:50	討議 閉会

日 時 平成 27 年 7 月 25 日 (土) 13:00~17:00
26 日 (日) 9:30~17:00

場 所 キャンパスイノベーションセンター東京1F 国際会議室

※ご参加を希望される方は、下記の岡田まで申し込みをお願い致します。

【お問い合わせ】 広島大学大学院教育学研究科

社会認識教育学講座 岡田 了祐 okada@hiroshima-u.ac.jp 082-424-6801

※学習システム促進研究センターでは、HPを開設しています。 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/ridls/>

ご 挨拶

学習システム促進研究センターは学習や学びに焦点化し、研究を本格的に進めようとしています。

学習、学びにおいて重要な点は、次の4点です。第一は、児童・生徒を教育の中心に据えること。第二は、児童・生徒の学習実態の把握とその改善。第三は、学習の促進。量的増加だけではなく、質的向上。第四は、学習促進のシステム研究。4つの課題を総称して、本センター、RIDLSでは、学習システム促進研究と称しています。

本国際シンポジウムは、米国と英国の研究者を招いての「品格、徳、シティズンシップ教育」に関するものです。

シティズンシップ教育は、構成員教育、メンバーシップのための教育の一つです。市民社会の一員を育てることを目指しています。

市民社会の定義は、一人ひとりの市民が家族、地域社会、国家、グローバル社会に生きていくところです。

市民社会は、国家のように、その構成員に資格があるわけではありません。だれでもがなれます。そのためにもどのような資質や能力、また知識や理解をもっていけばよいか、明確ではありません。

本シンポジウムでテーマにするのは、「品格、徳」、わが国では、一般には、道徳と呼ばれている領域です。とりわけ、市民社会では、人一人ひとりによってちがっているだけではなく、宗教、文化、民族などの特性によって多様で、いろいろなものとして存在し、一概にこれであると、言えるものは存在しません。一つのものに決定すると、他のものを排除することになり、相克や対立を生み出し、市民社会の存在を危なくす

るものです。

市民社会だけではなく、社会一般における道徳育成はどうすればよいのでしょうか。この問題は、学校教育の大きなテーマの一つです。

研究上の立場には3つあります。1つは、個別性に留まると考えるもの。道徳など価値や規範領域の教育は、一人ひとりの問題であり、公教育では特定のものとは取り扱えないし取り扱うこともしないという立場です。

2つは、特定のものを追究するもの。ある社会にはある道徳がふさわしい、備わっていると考えるものです。確かに、それぞれの社会によって異なるとしても、それぞれの社会にとってあるべきもの、価値あるものは特定化しうるし、現にしていると考え、その特定化するものを公教育で進めるという立場です。

3つは、あれこれの社会を超えて、世界=宇宙において普遍的なものがあると考え、それを見い出し、道徳領域の教育にしようとするものです。

本国際シンポジウムではこれらの類型を指標にさせていただけると、議論が深まると考えています。

本国際シンポジウムも教育学研究科長の宮谷先生をはじめ、各先生方、また、広島大学研究推進機構、研究企画室、URAのみなさま、研究支援担当を中心とした教育学研究科職員のみなさまに、多大な支援をいただきましたことに対して、御礼申し上げます。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

学習システム促進研究センター代表

池野範男

海外ゲスト紹介



ジェームズ・アーサー教授
(Professor James Arthur)

英国、バーミンガム大学教育学部長。品格と徳に関するジュビリーセンター代表。また、世界で唯一の国際シティズンシップ教育学会 CitizED 代表、*British Journal of Educational Studies* 編集長でもある。シティズンシップ教育研究の第一人者の一人。近年は、徳に関する教育を主要テーマにしている。主要な著書として、*Religion in Public Schools, in The Handbook of Secularism* (2014) , *International Handbook of Religion and Values* (2013) , *Research Methods in Educational Research*(2012) , *The Routledge Companion to Education*(2011) *Debates in Citizenship Education* (2011) , *Of Good Character: Exploration of Virtues in Values in 3-25 Year Olds Exeter*(2010) などがある。



ジョン・デビソン教授
(Professor Jon Davison)

英国、バーミンガム大学教授。元ロンドン大学 IOE 学部長。品格と徳に関するジュビリーセンター研究員。2009-2014年、The Society of Educational Studiesの会長でもあった。専門研究は、言語社会学。この立場から、シティズンシップ教育や教育問題に取り組んでいる。主要な著書として、*Learning to Teach English in the Secondary School: A companion to school experience*(2014) , *Education Matters: 60 years of the British Journal of Educational Studies*(2012) , *Debates in English Teaching* (2010) , *Social Literacy, Citizenship Education and the National Curriculum*(2001) , *History Teachers in the Making: Professional Learning* (1998) などがある。



アンバー・マカイアウ教授
(Professor Amber Makaiau)

米国、ハワイ大学哲学部、カリキュラム研究センター、哲学と倫理とその教育に関する上廣アカデミーの教授。ハワイの「子どものための哲学」(Philosophy for Children, P4C)の指導者。主要な著書として、*Journaling and Self-Study in an International Research Collective*(2015) , *Ethnic Studies Workbook*(2014) , *Ethnic Studies Teachers Guide*(2014) , *A Transformational Journey: Exploring our multicultural identities through self-study, Studying Teacher Education*(2013) などがある。



スティーヴン・エレンウッド教授

米国、ボストン大学、教育学部教授。担当社会科教育。品格と社会的責任の研究センター代表。主要な著書として、*Literature-Based Character Education*(1994) , *The Art of Loving Well. 3rd Ed Boston* (1993) , *The Narrative and Moral Education*(1990) などがある。